3

排気筒（煙突）は、ときどき点検を

排気筒（煙突）はときどき点検を

⚠ご注意

排気筒（煙突）が詰まっていると、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素（CO）中毒の原因となる場合があり大変危険です。
以下のような状態になっていないか、点検を行ってください。

排気筒（煙突）内に鳥が巣を作っていませんか？

地震・台風・強風・大雨・大雪のあとは、排気筒（煙突）のはずれや、壊れがないかどうか確認してください。

給気口がふさがっていませんか？

排気筒（煙突）の詰まり、はずれ、穴あきはありませんか？

隠ぺい部に設置されている排気筒も点検してください。
隠ぺい部に設置されている排気筒の腐食による穴あきやはずれにより、排気ガスが室内に入り込み、一酸化炭素（CO）中毒を起こす危険があります。

ガス機器のご使用、日常管理について

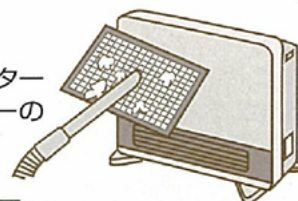
⚠ご注意

- **ガス機器の安全なご使用、日常管理については、取扱説明書をよく読んでいただき、その内容を理解し、ご使用いただくことが大切です。**
- **ガス機器ご使用時に不快な臭い、炎のあふれ、機器本体の異常な過熱などがあれば、ただちに使用を中止し、ガス機器購入店または修理店にご連絡ください。**

ガス小型湯沸器

熱交換器の目づまりなど、不完全燃焼を起こし、一酸化炭素（CO）中毒の原因となる場合があります。時々上部（防熱板の下）に汚れや詰まりがないかチェックしてください。上部に汚れや詰まりがある場合や使用中に火が消える場合は、販売店に点検・修理（有償）お申し込みください。

ガス暖房機

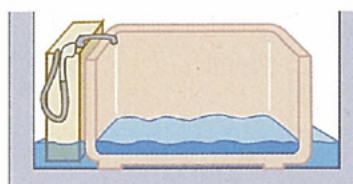
FF暖房機、ファンヒーターは裏側のエアフィルターのお掃除をしましょう。

ガステーブルコンロ

バーナーが目づまりしたまま使うと不完全燃焼を起こし、一酸化炭素（CO）中毒の原因となる場合があります。時々器具ブラシなどでお掃除をしてください。

ガス風呂がま

空だきに注意しましょう。
ガス風呂がまや浴槽を傷めたり、火災の原因にもなります。また、風呂がまが水につかると故障の原因にもなります。

4

ガス機器使用時は、換気をしましょう

ガス機器は新鮮な空気を求めています

⚠ご注意

ガス機器が劣化していたり、換気が不十分な状態でガスが燃焼すると、不完全な燃焼となり、同時に有毒な一酸化炭素（CO）が発生し中毒となる恐れがあります。

キッチンで

コンロや小型湯沸器をお使いになる時は、必ず換気扇を回すか、窓を開けて換気しましょう。小型湯沸器は安全装置が付いていても必ず換気しましょう。コンロや小型湯沸器を使用中に止まったら点検修理をお申込みください。

お部屋で

ファンヒーターをお使いになる時は1時間に1～2回程度、新鮮な空気に入れ替えましょう。

一酸化炭素は無色・無臭 吸い込むと死にいたることも… だからコワイんです！

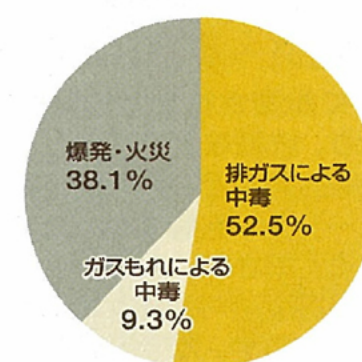
- 一酸化炭素中毒は、無色・無臭。気づきにくいものですが、毒性は強力で、少量でも危険です。
- 軽い中毒症状は頭痛・吐き気など、風邪に似ていますが、手足がしびれて動けなくなることがあります。
- 重症になると、脳細胞を破壊したり、意識不明になったり、死亡にいたることもあります。

空気中の一酸化炭素と中毒症状

CO(%)	呼吸時間および症状
0.02	2～3時間内に軽い頭痛
0.04	1～2時間で前頭痛 2.5～3.5時間で後頭痛
0.08	45分で頭痛、めまい、吐気 2時間で失神
0.16	20分で頭痛、めまい 30分で致死
0.32	5～10分で頭痛、めまい 30分で致死
0.64	1～2分で頭痛、めまい 10～15分で致死
1.28	1～3分で死亡

都市ガスによる事故で最も多いのが一酸化炭素中毒です！

ガスによる事故の半数以上が排ガスによる中毒で発生しています。ガスが燃えるには新鮮な空気が必要です。
しかし閉め切った室内で換気扇も回さずにガス機器を使用していると、酸素不足になります。これが事故発生の大きな原因のひとつになっています。

平成10年～14年
現象別事故件数

※経済産業省／都市ガス事故情報データベースより